

小倉のまちを歩く

のぞみで名古屋から小倉まで3時間だ。山陽新幹線はトンネルばかりで味気ないが、瀬戸内の景色がすこしは楽しめる。

小倉は古くから陸上交通の要衝であり、江戸時代より城下町として栄えてきた。小倉の駅ターミナルから、1985年開業の「北九州モノレール」がまっすぐ伸びている。駅前の商店街をすこし行くと紫川が見える。このあたりは「紫川マイタウン・マイリバー整備地区」で、紫川周辺を都心のシンボルと位置づけ、護岸整備と道路・公園・周辺市街地の整備が一体的に進められてきた。魅力的なまちなみが評価され、2007年度都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」を受賞した。この日はあいにく本降りの雨で残念だったが、リバーサイドで散歩が楽しめそうだ。

紫川を渡ると、リバーウォーク北九州という豪華な施設、そして小倉城、北九州市役所などが並んでいる。小倉城は小ぶりながら、なかなか気品が感じられる名城だ。紫川をもう一度渡ったところにある旦過(たんが)市場に向かった。

市場のウェブサイトによると、「豊前・関門からの山の幸、海の幸が集う北九州の台所」「ふれあい、人情、活気、笑顔、忘れかけていたものがここにある」と紹介されている。旦過市場は大正時代からの歴史をもち、昭和30年を前後して戦後のヤミ市的な建物から現在のような店舗に建て変わった。店先には山の幸、海の幸がぎっしりと並べられ、買い物客で込み合っていた。市場や商店街から、下町の雰囲気や庶民の生活ぶりが味わえる。



(2010年3月31日 記)